



# 三愛学園

第136号

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax 048-585-0562

Mail [san-ai@isis.ocn.ne.jp](mailto:san-ai@isis.ocn.ne.jp)

URL [san-ai-jidouyugo.org](http://san-ai-jidouyugo.org)

令和3年10月10日発行  
さんあい広報タスクチーム

児童養護施設さんあい 一時保護所オリーブ ファミリーホーム三愛茜の里 自立援助ホーム三愛子ひつじ寮



## 「個別性」と「多様性」

施設長 高瀬 一使徒



職員の誠実な働きと子どもたちの協力で、今年の夏休みも安心・安全が守られたばかりではなく、忘れることのできない楽しい思い出を沢山作ることができました。本当に感謝です。一方、新型コロナウイルス感染拡大で、職員や児童の行動制限を強めざるを得ない状況も続いています。

これらの行動制限は、子どもたちと職員のストレスや事情を踏まえたうえで実施しています。様々な事情でどうしても行動制限の範囲外の行動になってしまうような時は、「個別に相談して下さい。」とっています。そして十分な感染予防状況を確認した上で許可を出す場合もあります。日本人は一般的に上からの指導には従順であることが社会常識として求められています。しかし私たちの生活スタイルは十人十色ですし、一つのルールや指導をすべての人に一律に適用するのは無理があります。日本社会は、コロナ禍にあって求められる従順から少しでも外れた人を犯罪人のごとく批判する傾向が強くなっているように感じます。この事は、養育の現場でも同じです。共同生活には他者に不快な思いをさせないために細かいルールがあります。しかし事情によっては例外を認めてあげなければ軍隊のような日常生活になってしまいます。一人ひとりのニーズに応えるのが理想ですが、場合によっては応えられないケースもあります。しかしながら子どもたちの声に真摯に耳を傾け寄り添ってゆく「個別性」が必要なのです。先の東京オリンピック・パラリンピックの大きなテーマが「多様性」でしたが、個を尊重する「個別性」が「多様性」の核心であることは明白です。特に社会の中で弱い立場にある人の「個別性」は十分に担保される必要があります。近年議論が高まっている性的マイノリティー（LGBTQ）等の「多様性」の課題もグループとして一括りにして考えることは「個別性」を失います。聖書の中には様々な人物が登場しますが、イエス・キリストは、障害者、病人、罪人、外国人等の社会的弱者に目を注ぎ、それぞれ個別に取り扱っておられます。さんあい子どもたちは普段は元気一杯です。職員に暴言を発することも珍しくありません。でも、その生い立ちや将来の自立を考えると圧倒的な弱者であり、マイノリティーです。「個別性」、「多様性」のある社会の中で守られながら歩むことを切に願います。

=====

定期的にさんあい新聞をお送りしている皆様の中に、住所変更や発送停止をご望まれる方がありましたら、ご連絡いただけるよう、よろしくお願いいたします。

# 特集

## ～ 楽しかった！

### 各ホーム 特別部屋外出

#### もみのき



8月4日～5日で栃木県的那須方面へ外出をしました。前日にコロナウイルスの為予定していた施設がほとんど行けなくなってしまい、慌てて急遽予定を変更しました。それでも1日目は川遊び、トリックアートを満喫し、コテージに宿泊しBBQや花火をして楽しむことができました。2日目は那須どうぶつ王国へ行き動物たちを沢山見ることが出来ました。初めて見る鳥のショーに子どもたちも衝撃を受けていました。久しぶりの外出で2日間楽しむことができました。

#### ポプラ

子どもたちが毎年楽しみにしている特別外出！今年は一泊二日で茨城県へ行ってきました。水族館や遊園地で遊び、宿泊先のコテージではみんなで夜更かしをして夜食にラーメンを食べ、暗くなったら外に出て水風船を投げ合い服を濡らして大笑い！帰りは焼肉屋さんへ行き、お腹いっぱいお肉を食べて来ました！楽しい夏の思い出になったようです。



#### ひのき



ひのきの子ども達は茨城県大洗にある水族館のアクアワールド、明太パーク、壬生総合公園に行ってきました。水族館や明太パークでは、日頃外で遊ばない子が多いので歩き疲れながらも、イルカや魚に目を輝かせていました。公園ではコロナの為ほとんどの施設が閉鎖していましたが、子ども達なりに遊びを見つけて楽しんでくれました。子ども達もリフレッシュできて、沢山の思い出が作ることができて良かったです。子ども達の笑顔がたくさん見られて嬉しかった2日間でした。

#### いちよう

いちようの女子5名は新潟県の水族館と軽井沢のトリックアート展へ行きました。水族館では綺麗な魚やイルカショーを見て手拍子をしたり、



歓声を上げたりしていました。宿泊した2階建てのコテージは子ども達にとって珍しいようで大はしゃぎ！何度も階段を行き来し楽しんでいました。トリックアート展でも面白い写真を撮り、不思議な絵を見て沢山の笑顔が見られました。大満足の2日間でした。



## かしのき



かしのきは7月末に新潟へ外出しました。初めての海という子も多く、海が見えると「海だー！」と嬉しそうな声を上げていました。恐る恐る海に足を踏み入れていましたが最終的には帰るのを渋るほど楽しんでくれました。2日目に行った水族館のイルカショーでは拍手をして大喜び。コロナが心配でしたが、子どもたちにとって楽しい夏休みの思い出が出来て良かったです。



## グループワーク

### 幼児グループ

8月20日、夏休みの思い出作りとして幼児さん8名はお弁当を持って近くの公園に行きました。緊急事態宣言により、当初予定していた前橋子ども公園から急遽場所を変更しましたが、天候に恵まれ汗をたくさんかきながらアスレチックの遊具で遊ぶ子、シャボン玉をして遊ぶ子とそれぞれ好きな遊びを楽しみました。1対1で職員と子どもがペアを組み、子どもそれぞれの好みに合わせてお弁当も担当職員が手作りしました。美味しそうに食べる子ども達の笑顔は格別でした。帰るのを渋るほど楽しめたようで、職員も一緒に楽しむことが出来嬉しく思います。(木之内)



### 小学生グループ



小学生会議で出た要望を実現するべく、8月18、19日の2日間でマス掴み、カレー作り、テントでの宿泊、川遊びなどを行いました。台風の影響もあり天候の心配はありましたが、初めて経験する事ばかりで、みんな目を輝かせて楽しんでいました。コロナ禍の中、制限の多い生活になっている毎日ですが、楽しい時間を過ごせたことに感謝する2日間となりました。



(矢島)

### 中高生グループ

中高生のグループワークは普段できない体験で思い出作りをしよう！という事で、群馬県川場でルアーフィッシングを計画しました。しかし、緊急事態宣言で急遽計画変更。釣り体験はできなくなってしまいました。代わりに風布の川で川遊びをし、さんあいに戻ってBBQと花火をやって沢山楽しむことが出来ました。なかなか関わる機会が少ない中高生15名ですが、みんな同じ体験をして、盛り上がる事ができたので、子どもも職員も楽しむことが出来ました。



(梶原)

「我ら、さんあい応援団」第2回にご登場いただくのは神尾英樹さん。深谷市上柴町東にある美容室 Balance のスタイリスト（美容師）で、店長です。

お店の外観はレンガ造りのかわいいカフェ風。扉を開けると「いらっしゃいませ」と店員さんが和やかに迎えて下さいました。最近、改装をしたという店内は明るく広々としており、広めの個室でヘッドスパもできるということです。

「美容師として仕事を始めたのは19歳の時。もう30年になります。」と語る神尾さん。さんあいのことを知ったのは小学生の頃にさかのぼるそうです。



カットを通してお客さんに笑顔になっていただけるのがこの仕事のやりがいの一つのこと

神尾さんが通った小学校には当時、本郷にあったさんあいから子ども達が通っており、友達の中にもさんあいの子がいたそうです。

「さまざまな背景の子がいることは、子どもなりにわかってはいましたが、だからといって気をつかうこともなく、友達として遊べるのが嬉しいという感覚でした。」

成長して美容師として働き始めた神尾さん、お客さんの一人にさんあいの職員がいたことから、再びさんあいとつながるようになりました。ある時、その職員の髪をカットしながら、会話の中で「子ども達のカットはどうしてるんですか？」と尋ねたところ、ボランティアで美容師の方が来てくださっていたが、来られなくなってしまった。そこで中高生には安いところを探して行かせたり、幼児や小学生は職員が見よう見まねでバリカンで刈ったりしている、という答えが返ってきたそうです。それならば、自分が子ども達の髪をカットするボランティアをしよう申し出たとのこと。以来、春夏冬の長期休みの際に来園をして、子ども達の髪を切らせてくださっています。

「仕事もボランティアも、やるならば長く続けることが大切だと考えています。お店が休みの時に行くので強制ではありませんが、お店の若いスタイリストにも声を掛けて2~3人で行くようにしています。」「お店に来られるお客さんとは30年来のお付き合いの方もいます。親御さんやお子さんなど世代を超えてカットをさせていただいているお客さんもいます。この仕事の良いところは、髪の毛を切ることでお客さんに笑顔になっていただけること、そして人の一生に付き合っずっと続けていけることです。やりがいがある仕事だということを若いスタイリストたちにも、そして子ども達にも知って欲しいと思います。」と熱く語る神尾さん。その仕事を続けていく原動力は「好奇心」だそうです。コロナ過で自粛して



登山やインド旅行をする神尾英樹さん（ご自身のブログより）



神尾英樹さん（Balanceのホームページより転載）

いますが、休みの時に登山に挑戦したり、インドで列車の旅をしたりとその「好奇心」の一端をご自身のブログでも紹介をしておられます。

これからも子ども達にカットを通して笑顔を、そして仕事や人生を通して得られる喜びを伝えていってください。

## カット・ボランティア + ワクノビ・クラブお仕事体験

8月17日、お店の休日を使い神尾さんと2名のBalanceのスタイリストの方が来園し、恒例となっているボランティア・カットを実施していただきました。これまでは、順番に子ども達を座らせてカットをしていただくだけでしたが、今回はお願いをしてワクノビ・クラブに参加する子ども達にスタイリストさんたちの仕事の見学とお手伝いをさせていただきました。

カットを始める前、自己紹介に続いて、スタイリストの仕事とは何かについて神尾さんに話していただきました。「スタイリストはヘアカットを通して人を幸せにするお仕事です。」と子どもたちに語りかける神尾さん。みな真剣



に耳を傾けていました。

そのあと、子ども達はカットの様子をそばで見学しながら、切った髪をほうきでかき集めたり、カットするスタイリストさんの求めに応じて霧吹きやドライヤーを手渡ししたりさせていただきました。途中でスタイリストの方たちが使っているハサミや櫛といった道具を並べて、その種類と使い方も説明していただきました。子どもたちは皆、興味津々でした。最後は、子どもたちが体験の感想を話し、お礼を言って終わりにしました。

小さな体験ですが、このような活動を通して子ども達が将来の仕事のことを考え始めるきっかけになったり、さらにはこの中からスタイリストになる子が出てきたりしたら嬉しいな、と神尾さんも職員達も願っています。



### さんあいの職員になりました。よろしくお願いします！

7月よりお世話になって  
いる山口千鶴やまぐちちづるです。4歳から深谷に住み、一度就職で地元を離れましたが5年前にまた戻ってきました。

クライミングが趣味で、特に山や河原にあるある岩を登る外岩が大好きです。天気がいい時は一日中、岩場で過ごしています。他にもキャンプやSUPが好きです。今はなかなか出かけられない日々ですが、コロナが落ち着いたら、また思い切り楽しみたいと思っています。

仕事にも徐々に慣れるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。



9月よりお世話になってお  
ります青木麗華あおきれいかです。神奈川県横浜市出身。10年程前に北関東に越してきて、現在は埼玉県本庄市在住。小学校3年生の男の子の母親です。

本庄へ来てママ友に誘われ、人生初の神輿に挑戦したのですが、これが面白くてハマりました。今はコロナで神輿を担ぐことは出来ないのですが、また祭りが再開されたら参加したいと思っています。

児童福祉の仕事に携わるのは初めてで。皆さんの足を引っ張ることもあるかもしれませんが、精一杯笑顔で頑張ります。宜しくお願いします。



## オリーブ

オリーブは現在、幼児と小学生が在籍しており、日々賑やかに過ごしています。室内では、パソコンを使用し、動画を視聴したり、折り紙を折ったり、画用紙を使い、家を制作した児童もいました。戸外では、一輪車の練習をしたり、鬼ごっこ、砂遊び、バドミントンを楽しんでいます。学習は、苦手な児童が多く、意欲が低下してしまうこともあります。個人の能力に合わせ、居室で学習したり、学習ボランティアやアスポートの先生方に支援して頂いています。(羽根田)

### ファミリーホーム 三愛菡の里

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言、夏の猛暑、長雨等の影響により、公私にわたって子ども達の活動の機会は減少している中、子ども達は自身の目標に向かって日々の生活を逞しく送っています。それを支えているのは、ここで暮らす子ども達の思いやりの心です。「おはよう博子さん」そんな日常の一言が相手の心に温かい想いを届けてくれる。自分の心の中も穏やかであることに気づいています。他の誰かから思いやりを受けた時、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。この子達は隣近所など身近なところへも、温かい心を潤す力となっています。(野口)

### いちよの広場



### 自立援助ホーム 三愛子ひつじ寮

今緊急事態宣言の長期化に伴い、子ひつじ寮もコロナ対策を強化しました。玄関には非接触式体温計を、食卓にはアクリルボードを、キッチンボード前には透明スクリーンを設置。ワクチン接種も全員見通しが立ち、日々の感染対策のためこまめな声かけを心がけています。8月、さんあい退所児のHさんが退寮しグループホームで新しい生活を始めました。17歳女子ふたりも新たに加わり、利用者は現在7名です。就職活動、高校・大学進学と、それぞれが自分の進路を見出し、着実に前進しています。(浅野)



## アニマルクラブ

先日、新品の水槽と魚を飼育する為に必要な道具一式を寄贈して頂きました。どんな魚を飼うの？何匹飼う？等、アニマルクラブで話合いました。熱帯魚の写真を見せると色とりどりの魚に子ども達は興味深々！きれいだね。小さくて可愛いね。など口々に話していました。熱帯魚の写真を手に瞳をきらきらさせ、さんあいに新しく仲間入りする小さなお友達を心待ちにしているようです。お魚のお世話も一緒に楽しもうね！（村尾）

### 里親支援～その後の様子

A君が里親さんの元へ委託されて1年が経ちました。委託された当初は試し行動があり、「どうしたらいいの？」と頭を悩ませながら子育てをしている里親さんでしたが、児童相談所の支えと里親さんの頑張りがあり、今では保育園でお友達も出来楽しく通っているそうです。先日電話をいただき「相変わらずウルトラマンが好きでソファからジャンプしているんですよ」と楽しそうに里母さんが話してくれました。A君が「こんにちは」と元気な声を聴かせてくれました。里父さんからは「コロナが落ち着いたら遊びに行きますね」と言っていたが、会える日が待ち遠しいです。(野田)

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は右記の口座にお願いします。\*お名前をお入れください\*

埼玉りそな銀行 岡部支店 0058888

### 編集後記

「今年も赤とんぼが飛び始めたね！」と中1の女の子が言いました。その日の夕方から中庭を観察してみると確かに赤とんぼが飛んでいました。秋の訪れに気が付かず時間に追われていた私でしたが、その女の子の一言が空を見上げる時間と、日常の変化に気付くきっかけを改めて教えてくれました。心に余裕を持ち、秋のきれいな空と小さな生き物を見る時間を子ども達と一緒に楽しみたいと思う今日この頃です。(広報タスクチーム一同)